

# 東京電力は、甲状腺がん発生の責任を認め、補償しろ！

## 6人が東京電力を提訴

11年の東京電力福島第1原発事故で放出された放射線によって甲状腺がんになったとして、事故の時に福島県内に住んでいた17才〜27才の男女6人が、1月27日、東京地裁に、総額6億円余りの損害賠償を求める裁判を起しました。

甲状腺で作られるホルモンは、ヨウ素を原料として作られます。

福島第1原発事故時に放射性のヨウ素が大量に空気中にばら撒かれ、呼吸で吸い込んだり、水に混じった放射性のヨウ素が体内に取り込まれて、子供たちの甲状腺に集まりました。このヨウ素の放射線ががんを発生させたのです。通常、小児の甲状腺がんは、100万人に1人か2人発生しますが、福島県の「県民健康調査」などでは、事故後、現在までに約300人が

甲状腺がん、またはその疑いと診断され、200人以上が手術を受けています。

## チェルノブイリ原発事故で多発 福島では約300人が発症

甲状腺がんは、チェルノブイリ原発の爆発事故後も子供や若年層で多発し、事故との因果関係が認められています。福島第1原発事故後、当時18才以下の子供約38万人を対象に健康調査が行われています。約300人という異常に高い率で甲状腺がんが見つかったのですが、県民健康調査検討委員会は、被ばくとの因果関係は「今のところ考えられない」としています。過剰診断だという委員さえますが、実際に甲状腺がんの診療をしている医師の意見が軽んじられたり、解析方法が変更されるなど、「検討委員会」は、被害の実態に向き合おうとしていません。

「なかったことにされたくない」「差別こわく、黙っていた」

原告6人は事故当時6〜16才、うち2人は甲状腺の片側を切除、4人は再発で全部摘出、がんの転移がある人もいます。「甲状腺がんになったと言えば差別されるのではと恐怖を感じ、誰にも言えずこの10年を過ごしてきた」「このままなかったことにされたくない」「甲状腺がんがんで苦しむ子が300人いる。声を上げることで少しでも良い方に」と訴えています。

甲状腺を失った被害者は一生薬を飲み続けなければならず、健康不安や差別への恐れも続きます。治療のために大学中退や退職を余儀なくされたり希望の仕事につけなかったり、結婚や出産に不安も抱えています。10年間沈黙せざるを得なかった被害者にとって、ようやく始めることができるようになった裁判なのです。



## 東電は誠実に対応すべき

東京電力は、福島原発事故後、甲状腺がんが多発していることを当然知っています。今回の裁判が提訴される前に、小児甲状腺がんに関する別の賠償請求があったことも認めています。しかし、何件請求があったか、どのような形で請求されたか、どう対応したかについては明らかにしていません。

東京電力は、裁判に訴えた原告の思いを誠実に受け止め、充分な治療制度を確立し、1日も早く、被害者への補償を行うべきです。

【組合員N】



### ■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオン組合員だった長尾光明さん(故人)は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫(血液のガン)を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起しましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました(最高裁2010年4月)。

### ■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした4~8次の下請会社で稼働しています。3.11以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん(40代男性)は2016年11月22日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

### ■ 職場の問題、いつでもご相談を!

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月11日に街頭宣伝活動を始めて11年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう!



全造船関東地協労働組合  
よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505  
TEL 045-575-1948  
yuniyoko.sakura.ne.jp